

第92号

平成21年5月23日発行
群馬県山岳連盟

〒371-0005 前橋市堀之下町494-2
女屋 等志方
TEL 027-269-4570
FAX 027-269-4583

編集発行人
群馬県山岳連盟編集委員会 岡安茂能
印刷所 朝日印刷工業(株)



第十九回山田昇記念杯登山競争大会

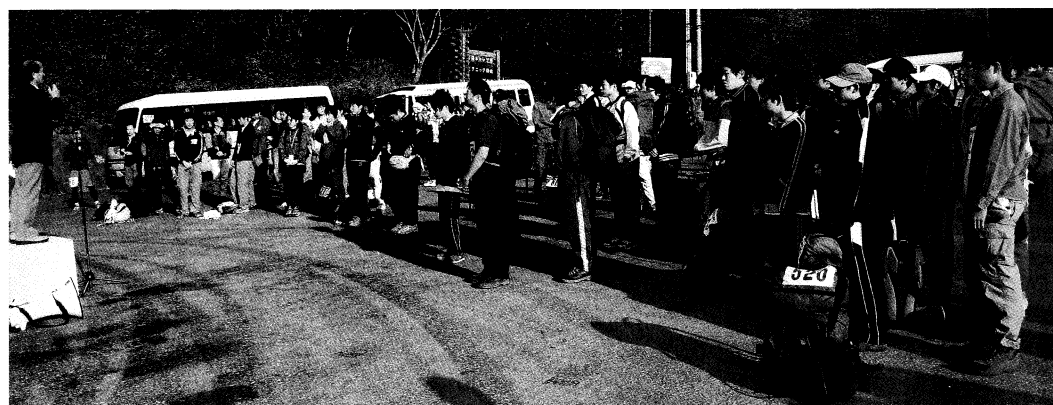
山田昇記念杯の部

望月将悟選手(男子三十五歳以下)が二年ぶり二回目のV

三枝照雄賞の部

板野隆徳選手(男子の部)が連覇

群馬県山岳連盟事務局長 女屋 等志



本県が生んだ登山家、山田昇、三枝照雄両氏の業績を後世に伝え、登山の基礎である体力を競い合って、登山の普及や発展を推し進めようとする、第十九回山田昇記念杯登山競争大会が、平成二十年九月二十八日(日)、武尊山(二五八メートル)において開催され、山田昇記念杯の部九十三名、三枝照雄賞の部五十四名、競争を行わない一般参加の部三十名、合計百七十七名が参加しましたが、山田昇杯の部では八十一名、三枝賞の部では三十五名が完走しました。

山田杯は、望月将悟選手(静岡県・静岡消防)が二時間三十分十六秒で二年ぶり二回目の優勝。三枝照雄賞(十九歳未満)は、板野隆徳選手(県立桐生工業高校三年)が二時間四十六分十三秒で連覇の栄冠をつかみました。

また、山田杯の部男子三十六歳以上五十五歳以下は吉田健太郎之選手(前橋市・佐川急便)、同五十六歳以上は粕川嘉久治選手(桐生市)が連覇、同女子の部は星野緑選手(川場村)が初優勝、三枝賞女子の部は大河原由衣選手(県立前橋女子高校三年)が連覇しました。

今大会は、曇りで気温も高くも低くもないといった絶好のコンディションのため、大会記録保持者の望月将悟選手が更なる記録更新をするのではないかと期待されましたが、今一歩おぼませんでした。次回の第二十回大会では、二時間の壁が破れることを期待します。



第19回 山田昇記念杯登山競争大会記録

山田昇杯の部

◆男子 35 歳以下の部

1	望月 将悟	静岡消防	2° 03' 16"
2	池田 幸男	林ニット	2° 21' 41"
3	渡辺 幸一	碓氷 A C	2° 33' 26"
4	吉田 尚紀	境町山の会	2° 34' 54"
5	松本 浩	境町山の会	2° 43' 22"
6	河津浩一郎	栃木県佐野市	2° 50' 53"
7	高橋 博征	長野県長野市	2° 53' 02"
8	澤井 京太	アイスエクストリーム六合	2° 58' 21"
9	河野 克昭	利根郡みなかみ町	3° 04' 15"
10	小野 典弘	沼田警察署	3° 07' 01"
11	津吹 浩平	加蘇陸上クラブ	3° 23' 05"
12	石井 達幸	山とスキーの店石井	3° 25' 56"
13	萩原 守	信越化学山岳部	3° 28' 16"
14	江原 大悟	マカロニクラブ	3° 28' 17"
15	星野 祐二	利根郡川場村	3° 28' 40"
16	井上 由史	チームめぐる	3° 28' 48"
17	小松 涼	チームめぐる	3° 32' 24"
18	飛鳥 竜一	茨城県水戸市	3° 38' 41"
19	松本 大	公立藤岡総合病院	3° 39' 47"
20	田口 智也	埼玉県北埼玉郡北川辺町	3° 40' 08"
21	澤田 裕史	前橋市	3° 40' 26"
22	島崎 智洋	豊生会 RC	3° 41' 07"
23	田村 元臣	前橋山岳会	3° 55' 16"
24	南雲 清光	前橋市	4° 12' 35"
25	井上 貴智	県立伊勢崎高校	4° 12' 40"
26	佐々木直人	新潟市役所	4° 14' 00"
27	浜本 佳英	安中市	4° 19' 15"
28	今泉 仁輔	沼田市	4° 31' 43"
29	鳥山 義則	渋川市	4° 37' 57"
30	石塚 宏幸	茨城県坂東市	4° 54' 45"

◆男子 36 ～ 55 歳の部

1	吉田健太郎	佐川急便	2° 31' 20"
2	テニスオコーネ	東京都青梅市	2° 33' 34"
3	割田 靖	群馬ミヤマ山岳会	2° 42' 00"
4	斎藤 光広	越生七福神 TC	2° 46' 05"
5	原 邦彦	月夜野マラソン	2° 49' 14"
6	川崎 政春	越生七福神 TC	2° 59' 54"
7	金澤 浩史	太田山岳会	3° 06' 21"
8	岩川 修	大空ヒマラヤ会	3° 10' 37"
9	若本 雅史	茨城県古河市	3° 12' 13"
10	大橋 一雄	栃木県宇都宮市	3° 13' 12"
11	長谷川民男	前橋市	3° 16' 17"
12	飯田 祐治	T・R・C	3° 22' 47"
13	マークフィーラー	東京都福生市	3° 33' 10"
14	大堀 努	高崎市	3° 40' 14"
15	片桐 睦浩	桐生市	3° 43' 08"
16	佐藤 浩	チームめぐる	3° 44' 04"
17	吉野 林平	沼田市	3° 48' 38"
18	鹿山 知之	太田山岳会	3° 48' 49"
19	田村 将夫	越生七福神 TC	3° 59' 11"
20	越 友宏	チームワン	4° 00' 28"
21	橋本 昌美	加茂ローン TC	4° 03' 10"
22	金井 進一	碓氷陸上競技クラブ	4° 09' 40"
23	清水 茂	ARDF 群馬	4° 09' 56"
24	増田 浩之	高崎市	4° 12' 34"
25	沓澤 純	伊勢崎トライアスロン協会	4° 13' 54"
26	柳井 郁雄	沼田市	4° 15' 08"
27	高橋 俊一	群馬県警察本部	4° 17' 38"
28	渡部 浩樹	福島県喜多方市	4° 21' 01"
29	成瀬 康也	栃木県宇都宮市	4° 24' 59"
30	進藤 雅文	太田山岳会	4° 31' 19"
31	小林 浩一	利根郡川場村	4° 37' 02"



32	横田 徹	国立西群馬病院	4° 49′ 49″
33	正田 和則	太田市	4° 51′ 08″
34	黒澤 琢磨	マカロニクラブ	4° 51′ 42″

8	尾崎 兼行	群馬 FC60	4° 19′ 52″
---	-------	---------	------------

◆男子 56 歳以上の部

1	粕川嘉久治	桐生市	2° 45′ 10″
2	山田 豊	沼田山岳会	3° 03′ 00″
3	唐沢 三夫	沼田市	3° 29′ 02″
4	井上 土史	チームめぐる	3° 42′ 49″
5	齋藤 長作	松井田山岳会	3° 47′ 19″
6	熊澤 清明	東京都品川区	3° 50′ 24″
7	中澤 安信	伊勢崎山岳会	3° 56′ 32″

◆女子の部

1	星野 緑	利根郡川場村	2° 44′ 24″
2	加藤 揚子	沼田山岳会	2° 44′ 32″
3	平林 尚子	利根郡みなかみ町	3° 10′ 16″
4	阿部 紀子	チームめぐる	3° 25′ 17″
5	大家千枝子	前橋山岳会	3° 28′ 31″
6	成瀬 美希	栃木県宇都宮市	3° 34′ 39″
7	佐藤祐紀子	チームめぐる	3° 36′ 31″
8	中澤 順子	吾妻郡中之条町	3° 41′ 26″
9	深津 智美	沼田山岳会	3° 49′ 17″

三枝照雄賞の部

◆男子の部

1	板野 隆徳	桐生工業高校	2° 46′ 13″
2	西野 敬祥	高崎高校	3° 09′ 39″
3	山田 貴之	沼田高校	3° 13′ 16″
4	五十嵐 輝	高崎工業高校	3° 20′ 45″
5	岩元 規	高崎工業高校	3° 21′ 10″
6	横田 浩紀	沼田高校	3° 26′ 33″
7	長沼 寛之	前橋高校	3° 27′ 17″
8	蜂須賀 大貴	沼田高校	3° 27′ 54″
9	鶴渕 健太	沼田高校	3° 39′ 07″
10	小野 李旺馬	渋川工業高校	3° 39′ 41″
11	永井 利明	高崎工業高校	3° 41′ 27″
12	星野 良介	沼田高校	3° 41′ 54″
13	岩崎 一輝	高崎高校	3° 49′ 43″
14	宮原 大地	沼田高校	3° 55′ 55″
15	齋藤 知	前橋高校	3° 58′ 41″
16	上原 久司	高崎工業高校	4° 00′ 07″
17	平井 直樹	高崎高校	4° 00′ 39″
18	浜名 俊明	高崎工業高校	4° 04′ 42″
19	大淵 一成	沼田高校	4° 05′ 52″

20	小野 純	沼田高校	4° 05′ 58″
21	岡田 陽介	高崎高校	4° 12′ 43″
22	木島 丈太	前橋高校	4° 13′ 53″
23	永井 衛	伊勢崎高校	4° 28′ 52″
24	原 渉	前橋高校	4° 37′ 41″
25	近藤 雄太	前橋高校	4° 40′ 08″
26	寺島 佑亮	前橋高校	4° 40′ 48″
27	相川 雅和	前橋高校	4° 40′ 53″
28	松澤 卓也	前橋高校	4° 51′ 44″
29	小中 英樹	前橋高校	4° 52′ 14″
30	綱島 稜	前橋高校	4° 52′ 28″
31	登坂 優希	高崎工業高校	4° 55′ 41″
32	高橋 文也	高崎工業高校	4° 58′ 22″

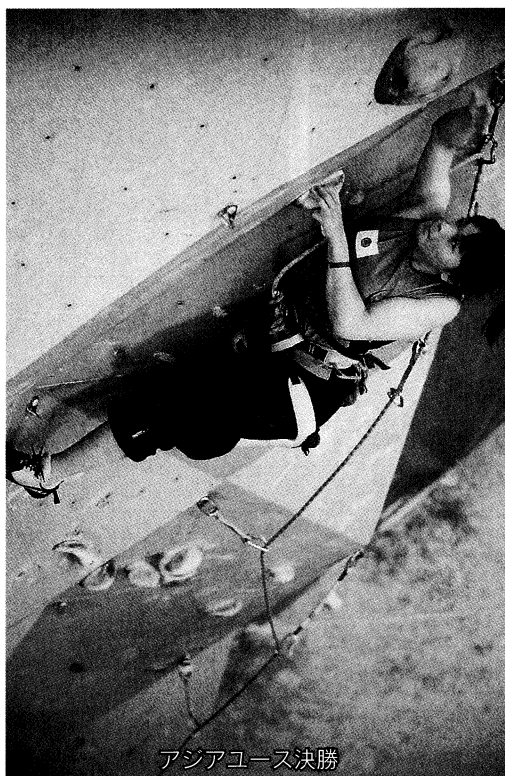
◆女子の部

1	大河原 由衣	前橋女子高校	3° 29′ 28″
2	三田 智子	前橋女子高校	3° 45′ 12″
3	中田 舞	前橋女子高校	4° 36′ 04″

(表中の ° ′ ″ は、時間・分・秒を表す)

世界・アジアユース選手権 に出場して

前橋女子高校 長谷川 美玲



アジアユース決勝

たという自信を持ち、冬のオーストラリアへと飛び立ちました。私とともに大会へ出場した日本人選手は16人で、コーチと監督計4名が引率としてついてきました。

大会一日目は開会式と予選1本目でした。開会式は各国に選手が国旗を持ち、入場という、元オリンピック開催国らしいものでした。予選1本目の競技順が私は早かったため、開会式が終わって早速アップをしようとアップエリアへ行ったら、とてもたくさんさんの選手がすでに壁に取り付いており、圧倒されてしまいました。海外の選手達はわれ先にと、登っていて海外ではきちんと自己主張をしないとイケないんだと痛切に感じました。

あつという間に私の番になり、身体が温まってない状態で私の競技がスタートしました。冬のオーストラリアは予想以上に寒いのです。そして緊張もあり、力を出し切れずに落ちてしまいました。予選1本目の順位は41位でした。

二日目は予選2本目でした。私は前日の順位を挽回しようとして、とても集中でき、自分でも良かったと思える、力

を全部出せたクライミングができました。順位は21位でした。しかし予選の順位の合計は31位で、予選通過の26位には届きませんでした。

結果は予選敗退でしたが、私にとってこの大会は更なる成長へのための糧となりました。世界各国の同世代の強いクライマーとの交流、間近でみるワールドカップ出場者の登り、ともに出場した日本代表選手との友情、すべてが私のクライミングへのモチベーションを上げ、もっと強くなろうと決心しました。「ワールドユースで決勝まで行く」これを目標に頑張りたいと思います。

また私は11月31日〜12月1日に山口県で行われたクライミングア



アジアユース表彰式

ジアユース選手権に日本代表として参加しました。日本代表選考基準は8月のJOCジュニアオリンピック各カテゴリー8位以内というもので、私はユースA(16〜17歳)で1位でした。

私は去年シンガポールで行われたアジアユースで3位入賞しており、今年も絶対に入賞しようと思っていました。今回のアジアユースは去年に比べ、2倍ほどの参加者が集まり、そんな中で自分がどの位置にいるのか確かめる良い機会となりました。

予選は2本登って、その合計順位をつけます。決勝へは上位8人までが進出します。私は1本目が3位、2本目が4位で合計3位となり予選を通過しました。

次の日の決勝はとても寒く、あまりコンディションが良いとは言えませんでした。手がかじかんで感覚がなくなってしまうのです。しかし私は3位入賞することができました。1位と2位は韓国の選手で、韓国の選手のレベルはとても高く驚きました。

私が世界を目指していく上で、アジア優勝は1つの通過点です。来年こそはもっと力をつけて優勝したいです。

8月28日〜30日、オーストラリアのシドニーでワールドユース選手権は開催されました。この大会は世界各国から14歳〜19歳までのジュニア代表選手が五〇〇人も集まる、とても規模の大きい大会です。私は三月に行われた、代表選考会を兼ねたユース選手権で3位となり、日本代表に選ばれ出場してきました。

まず高校に入學し、クライミングを本格的にトレーニングし始めた頃、ワールドユース選手権は私にとって遠い存在でありました。

しかし練習を重ね、大会でも成績を残せるようになり、自分に自信がついてくると自然に「ワールドユース選手権」に出場したいと思うようになりました。

代表選考が発表され、出場が決定してから私はますます練習に力をいれました。ワールドユースの会場となる壁は17メートルととても大きく、その高さに対応するためにも神奈川や新潟、東京など大規模なクライミング施設へ遠征しました。

そしてできることはすべてやっ

第63回国体(チャレンジ!大分国体)

山岳競技会報告

群馬県少年女子監督 長谷川喜久男

①期日 平成20年10月3日～5日

②会場

大分県竹田市、県立竹田高等学校

校

③群馬県選手団

《成年男子》

監督

赤松 久宇(三菱電機ホーム機器)

選手

平野 正行(アドバンテスト)

富澤 太郎(盟和産業)

《少年女子》

監督

長谷川喜久男(高崎工業高校)

選手

長谷川美玲(前橋女子高校3年)

大澤 咲子(前橋女子高校2年)

④競技日程と成績

10月3日(金)

成年男子リード予選 26位

少年女子ボルダリング予選

第3位(決勝進出)

10月4日(土)

成年男子ボルダリング予選

第3位(決勝進出)

少年女子リード予選

第4位(決勝進出)

10月5日(日)

A M 少年女子リード決勝

第5位 入賞

P M 少年女子ボルダリング

決勝

第5位 入賞

成年男子ボルダリング決勝

第8位 入賞

⑤競技概要

本年度から山岳競技はボルダリングとリードの2種目となりました。リードの今年度の大きな変更点は、全選手の順位づけをし、その合計でチーム順位を決めるようになったことです。前年度までの、2人の獲得高度の合計での順位付けとは、結果において微妙な違いが出ます。今回の少年女子群馬チームのリード決勝において、前年同様に順位付けすると第3位となります。ボルダリングは

国体特有のルールで実施され、運営側・選手とも試行錯誤的な面が残る大会となりました。チーム2人で2つの課題が設定されたウォールを登りますが、登る順序やトライ回数などはチームの自由で、さらに監督や2人の選手は自由に応援や指示ができます。予選はこのウォールが2面で、一人が計4課題を登り、完登数やボーナスポイントなどで順位を決定します。登る順やアドバイスにチームカラーがあらわれ、選手の疲労などを考え、トライ数



をどう押さえるかなど作戦が生まれ、観客の声援も自由で会場は大いに盛り上がりました。決勝は2ラウンド制で、第1ラウンドは進出した8チームが予選と同様に4課題を登り、上位4チームが第2ラウンドに進み4課題を登り順位をつけます。

今回の国体は種目がクライミング関係のみになって注目される点がいくつかあります。特に成年男子はシード競技なので、全県から

選手が出場します。ワールドカップ入賞者から普段はあまりコンペに出ない有力者などが出場し、全日本クラスの大会においてもこれほどの顔ぶれはありません。その他のブロック大会がある種別でも同様に実力者が顔をそろえます。レベルが高く観客を惹きつける競技となることが予想されます。次にボルダリングは国体の特別ルールで行われ、これは世界でも類を見ないタイプのコンペとなります。この競技が内容的にも優れ盛り上がるものとなることを期待されています。ワールドカップなどでも入賞する選手に対してどのような課題が設定されるか、選手はどのようなパフォーマンスを見せてくれるか興味津々の方も多いと思われれます。また、リードとボルダリングを両方とも得意としている選手は少なく、普段はどちらかに特化している選手たちが両方の種目に出ることで各県チームの特性や作戦があり、どのような展開になるかも楽しみです。そして、観戦しやすい会場と見てわかりやすい競技として、いままで関心のなかった人たちにもクライミングの魅力を発信する機会となることが期待されます。

⑥競技を観戦した雑感

成年男子ボルダリングでは、ワールドカップやジャパンカップ入賞者を抑え、その点では無名である群馬県チームが予選3位で通過したことは、関係者も驚くような快挙でした。ただ、これは選手には失礼な反応で、今回の選手たちは地方のクライミングなどには積極的に数多く参加し好成績も残しているの、普通に実力が発揮できた結果でしょう。県内にはジムなどでクライミングを楽しむ人たちはかなり多いのですが、コンペに出場するとなると少なくなります。今回の活躍が多くの人にコンペに参加する希望や意欲を高めてくれるといいと思います。山岳連盟の会員の参加も期待しますが、国体を目指す多くの人が、これをきっかけに山岳連盟の活動にも参加してもらうことも理想的です。

成年女子、少年男女は関東ブロックのレベルの高さを示したものとなりました。関東からはそれぞれ3県が本大会に出場していますが、全ての種目で3県とも決勝戦に進出し上位を占めています。このレベルの高い関東ブロック

クを通過するのは今後とも容易なことではありません。通過の枠を広げてもらいたいのですが、通過できれば大きなチャンスがあるとも言えますので、このブロック

で切磋琢磨するしかないのでしょうか。成年女子ではワールドカップで大活躍中の野口選手を有する茨城県が圧倒的な強さを見せました。その他の県にも全日本クラスの実力者が揃っていて、来年度以降もこれらの同じ選手の戦いとなるのは必至です。かわつて、少年男女は毎年か長くても3年で選手は入れ替わります。ここに継続の難しさがありますが、成年のように強い選手が固定することは少なくなります。年とともにチャンスが巡ってくることもあります。毎年新しい選手を育て続けることが求められます。

今回の大会では群馬の名前を全国に知らしめるような選手の活躍がありました。ここにいたるまでの選手各人の努力に敬意を表したいと思います。また、来年度以降のことを考えるとクライミングの裾野を広げることが一番の課題です。岳連会員の積極的な参加や、多くの人にクライミングを紹介していただき、特に子供たちの競技

人口が増えますように、よろしくお願いいたします。

⑦選手の感想

前橋女子高校 3年 長谷川美玲

私の高校三年間は国体を目指し仲間と共に縦走・クライミングの練習をすることが何より一番の目的であり、目標であり、思い出でした。

1年では先輩の足を引っ張つてしまい、自分の力の無さを痛切に感じました。その経験から人一倍

練習をすることを決め、地道な努力をしました。

2年では縦走クライマー、そして前年の関プロ敗退という悔しきを知るものとしてチームを引っ張り、国体入賞を果たしました。縦走競技を通じ、私は精神的にとても大きく成長することができました。それは現在、私がクライミングをする上で力の源ともなっています。

そして今回の大分国体は、三年間の練習の成果と、「国体優勝」という目標



への挑戦、という私の中で大きな位置を占めていた大会でした。去年の秋田国体が終わってから私は「国体で優勝」したいと強く決心し、さらに強くなるために、きついトレーニングもしてきました。それと同時に後輩の指

導に力を入れ、県外のジムへの遠征も精力的に行っていました。

私は1月に行われたオーストリア合宿に参加し、効果的なトレーニング方法を学びました。そこで私は後輩の指導をするにあたり、一年という短い期間で効率よく強くさせるメニューを毎回の練習で取り入れてきました。例えば、持久力をつけるためのインターバルトレーニングやオンサイト練習などです。そして後輩は一年で大きく成長したと思います。高校生から始めた選手の中では全国的に見ても、かなり強いといえるほどにもなりました。高校に入る前からクライミングをしていた選手との実力差はやはりありますが女子の場合、努力次第で全国区でも戦える、という良い見本になったと思います。

私は一年間ずっと後輩とともに練習をしてきて、一人ではついつい自分に甘くなってしまうトレーニングも、互いに励ましあい、高め合うことでこなしてきました。クライミングは最終的には自分との戦いです。しかし自分との戦いだからこそ、仲間との練習が大きな支えとなるのだと思います。大会で自分の限界以上の力を振り絞

るには強い精神力が必要です。そのためには普段の練習で「もう無理」と思ってから力を出す練習をしなければなりません。また本番での自信は、それに裏打ちする練習によってつきます。自分ができることはすべてやったと思えば大会本番で緊張することなく、力を発揮できるのです。私が学んだことは練習が一番大切だということです。

私は三年間の経験を生かし、また更に強く・上手くなるためにこれから努力をしていこうと思います。

前橋女子高校 2年 大澤 咲子

大分国体が終わって、あつという間に時間が過ぎてしまいました。私の今年の目標は、「国体出場」だったので、国体が終わってからはだらだらと日々を過ごしている感じがします。

国体本番の三日間は思ったよりも長く、思ったより短かったように思います。それだけ私にとって意義のある、濃密な三日間でした。

日程は、一日目はボルダリング予選、二日目はリード予選、三日目は決勝、という感じでした。疲

労は段々たまっていくものなので、最終日まで体力が残せるか心配でしたが、体力は何とか大丈夫でした。しかし、私は精神的な面での負担に耐えきれず、一番大事な決勝で自分の思うような成績が残せずに終わってしまいました。終わった瞬間とても悔しかったです。後から「あそこでああしていれば……」こうすることもできたのに……とたくさん反省が浮かんできましたが、一発本番のその瞬間に「もうダメだ。」と思ってしまう時点で、本当に『もう駄目』になってしまふ。クライミングは自分との戦いだな、と、そんなことを改めて思い知らされた結果になりました。

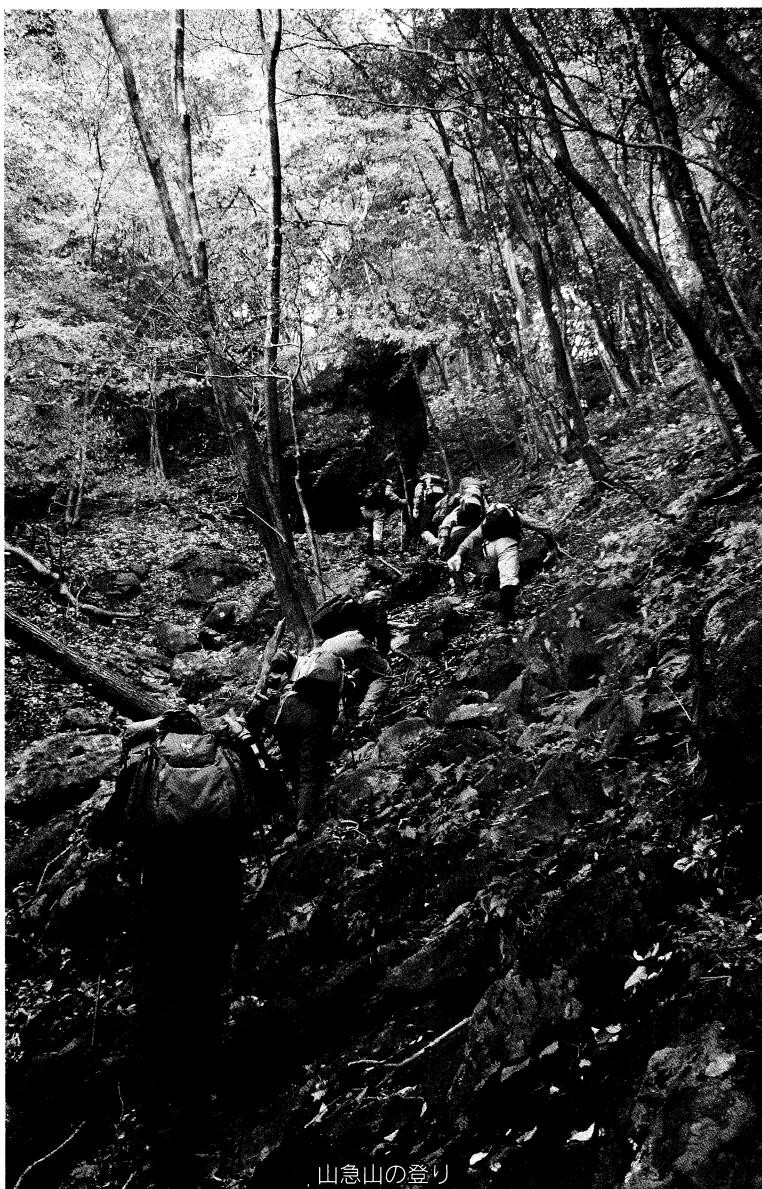
今回の国体はあくまで私は連れて行ってもらったという立場でした。先輩は卒業し、今度は私が後輩を引っ張る立場になります。今の私ではまだまだ力不足ですが、次の新潟国体に向けて頑張っていこうと思います。

最後に、国体出場に際して、お世話になった先生、先輩、応援して下さったたくさんの方々、本当に有り難うございました。これからもご指導とご声援を宜しくお願ひします。

第24回群馬県民の日記念事業 『ぐんま山と森の月間』協賛イベント

第31回県民登山大会報告

松井田山岳会 野口 勝広



山急山の登り

平成二十年十月二十六日(日)安中市碓氷峠くつろぎの郷周辺を会場に、第三十一回県民登山大会が開催されました。

今年は、我々松井田山岳会が幹事となりました。今回の県民登山大会を大成功に導く為に、一年前より準備に入りました。まず最初

に行った事は、松井田山岳会内に第三十一回県民登山大会実行委員会を立ち上げ、より良い運営方法を学ぶ為に、第三十回の県民登山大会に精鋭七名を送り込みました。その後何度も会合を重ねて

コース設定、下見、コース整備を繰り返して大会を迎えました。

当日は、一般参加者及び役員を含め百四十八名の山を愛する人達が集いました。

七時三〇分より開会式が行われ、大会会長角田二三男岳連副会長挨拶、地元安中市荒川明課長より歓迎の挨拶、佐藤光由大会委員長挨拶、大会開催に尽力頂いた安

中市に感謝状の贈呈後、二コースのCJ・SJを紹介して開会式終了。この後参加者は各コースに分かれ出発。

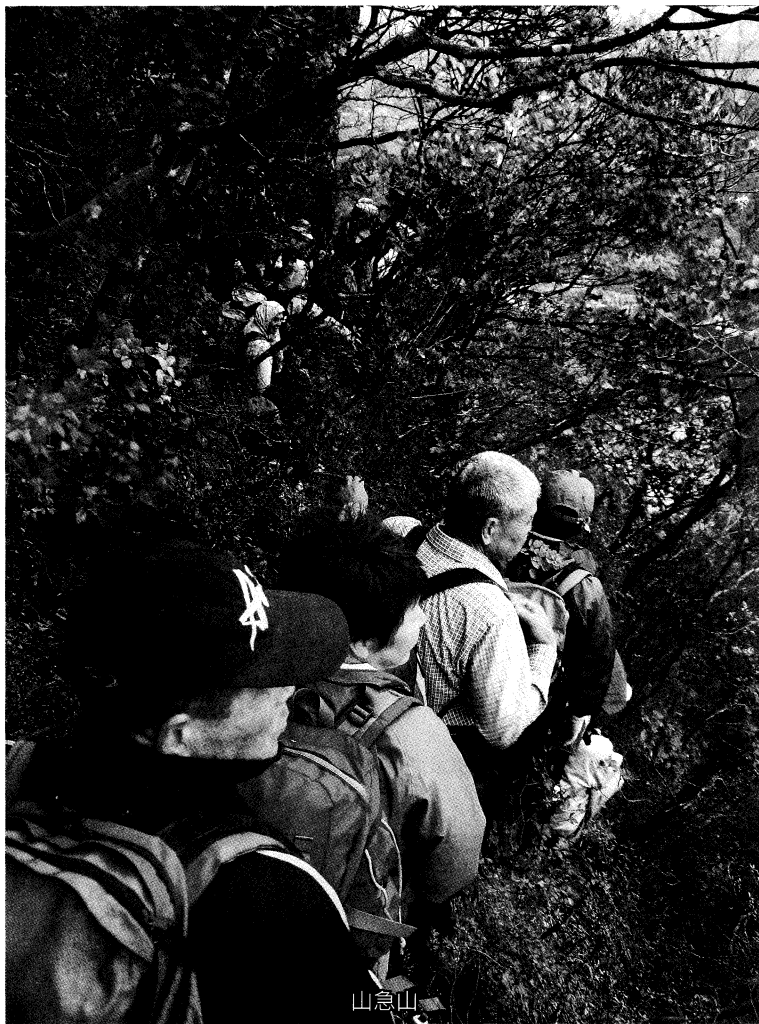
Aコース 山急山(六十九名)は、それぞれバスに分乗してくつろぎの郷を出発(8:15)↓入山 小柏に到着(8:30)↓上信越自動車道路下の登山道入口を出発(8:45)↓出発直後は広い道が続く、しばらくすると突然急な林に突入(きつい...)↓しばらく行くと中間尾根に出る(稜線)平らな尾根をしば

らく歩く(やつと一息つける...)↓しかし平らな尾根は、長く続かない↓突然大きな岩場が出現登りがきつい...↓頂上直下の難所出現し渋滞発生(頂上直下の難所はザイルをフィックスしてあるが、足が上がらない...)↓難所を無事クリアして山急山の頂上に到着(10:13)この日の山頂は、浅間山からの強い風が吹き荒れていた(強風を避け簡単な食事をとるが寒い...)↓昼食を早々に済ませ、山頂を出発する(11:20)↓稜線から沢へ下り込む(さつきまでの強

風が嘘のようだ)↓沢沿いを進む(清流が素晴らしい)↓途中で休憩をとっていると、二頭の鹿に遭遇した↓二頭鹿に見送られて、山急山を後にした(13:10)↓碓氷第3橋梁(めがね橋)(12:20)↓アプトの道を下り、くつろぎの郷到着(14:20)流れ解散。

Bコース 旧中山道刳石山(五十九名)は、やすらぎの郷出発(8:05)↓旧国道18号を通りC9より登山道に入る(8:20)↓線引き観音(8:35)↓見晴らし

(10:05)↓刳石山(10:25)昼食↓刳石山出(11:00)↓御巡幸道(11:35)Bコースの最難関箇所を無事クリアする↓碓氷第3橋梁(めがね橋)到着(11:45)↓アプトの道を通りくつろぎの郷到着(12:35)流れ解散。

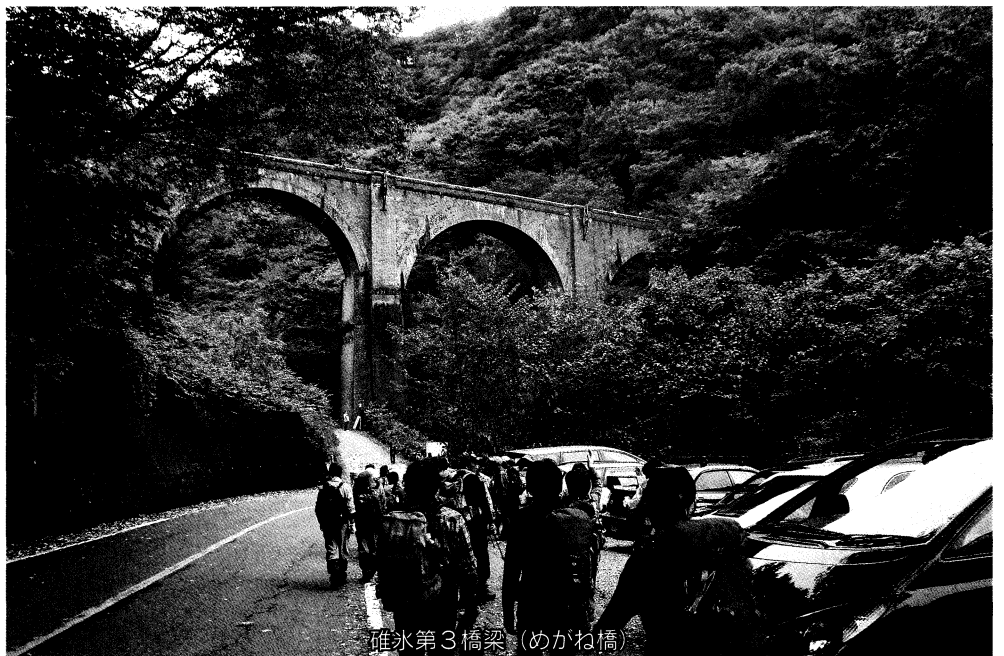


山急山

到着(8:40)眼下を見下ろすと、坂本宿を一望出来る↓弘法の井戸(名水を一口飲む)↓堀切り↓座頭ころがし(9:55)歴史を感じさせる色々な石仏及び史跡がいたる所があり、旧中山道の歴史を感じることが出来る↓栗が原

最後に、参加者全員が事故もなく無事下山する事ができたことに感謝申し上げます。又、ご協力頂いた安中市教育委員会、安中市体育協会、(財)碓氷峠交流記念財団、群馬県山岳連盟の役員の皆様、有難うございました。

次回大会での再会をお願い申し上げます。上げ、県民登山大会の報告と致します。



碓氷第3橋梁(めがね橋)

平成20年度中高年安全登山指導者講習会 〈東部地区〉

群馬岳連指導委員会 吉田直人

「中高年の体力等に応じた登山

隊長

の知識や技術について習得すると

ともに研究協議を行い、中高年登

山指導者の養成と安全な登山の普

及を図る」を趣旨に、中高年安全

登山指導者講習会が平成20年9月

13日(土)から15日(月)の三日間、

みなかみ町の去来荘及び谷川岳で

開催され、北海道、青森県、岩手県、

宮城県、秋田県、山形県、福島県、

茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、

千葉県、東京都、神奈川県、山梨

県の15都道県から29名の参加者が

あった。

講師として、谷川岳肩の小屋管

理人の馬場保男氏に講演を、群馬

大学医学部教授の齋藤繁先生、同

教育学部教授山西哲郎先生に講義

をして頂き、群馬岳連指導委員会

より21名が実技、研究協議を担当

した。

【二日目】9月13日(土)

◎講演「谷川岳遭難の実態」

講師…馬場保男(谷川岳肩の小屋
管理人)・元沼田警察署谷川岳警備

沼田警察署谷川岳警備隊に配属

された30数年前最初に出動した救

助が遺体搬出だったこと、以来

700件以上の遭難救助に関わ

り、その経験からいろいろなケー

スを説明、また発生状況、原因、

年齢層を過去のデータを基に解

説、特に過去五年間における遭難

事例から、中高年登山者の事故が

多いことを指摘。また、肩の小屋

の管理人としての立場で、最近の

登山者の傾向を見ると、天神尾根

を中心に登山者が増えてきた、若

い人も以前と比べ多くなりそれ自

体は良いことだと思うが、ゴミを

拾ってきても小屋に置いていく者

(当人は良いことをしたと思っ

ている)や、小屋の水を勝手に持つ

ていく者、中には疲れて降りられ

ないからヘリコプターを呼んでく

れ、などと言う者まで出てきた等

モラルの低下も目立つことを指

摘。谷川岳の全てを知り尽くして

いる馬場氏ならではの大変貴重な
講演であった。

◎講義Ⅰ「登山と病氣」

講師…齋藤 繁(群馬大学大学院

医学系研究科医学部教授)

遭難原因は一般的には道迷い、

転滑落だが最近では、持病を持つ

ている登山者が、その病気の発症

が原因で遭難するケースが中高年

登山者特有の事故として増えてき

た。狭心症をもつ登山者が、持病

の悪化から心筋梗塞で死亡した事

例を挙げ問題を解説。また高血

圧症の人は、徐々に運動の強さを

上げていくことが大切で、いきな

り急登するようなコースはやめ、

林道歩きから始め、ペースをゆっ

くり上げていく登り方が大切であ

る、山では直ぐに医者が来ないこ

とを登山者は肝に銘じるべきであ

る等の講義があった。

◎講義Ⅱ「中高年の体力・健康と
登山」

講師…山西哲郎(群馬大学教育学
部教授)

自己紹介で、走ることが大好
きで、時間があれば走っている、

三途の川も走って渡りたいとの
ジョークで参加者を笑わせる。

① 中高年の登山運動学

② 登山のスポーツ運動学的特性

③ 垂直的志向と水平志向の相違

④ 登山とランニングの関係

⑤ 登山と健康

⑥ 中高年の体力

⑦ 登山の運動学的仕組み

⑧ 登山のための健康体力トレー
ニング

の8つのテーマで自身の経験も交

え楽しく学べた。講義中も動き回
り、参加者を走らせたり独特な講
義であった。

馬場氏、齋藤、山西両先生と

も、限られた時間内で非常に解り

易い話で、所々ユーモアも交え参

加者を飽きさせない話術は流石で

あり、参加者から「とてもわかり

易い講義で時間がたつのを忘れ

た」講義のテンポが良く、楽しく

学べた」講師が個性的で楽しかつ



た」等々大変好評だった。

〔二日目〕9月14日(日)

全体を3班に分け、1・2班が第1グループ、3班が第2グループとした。

★第1グループ 天神尾根コース
谷川岳ロープウェイ↓天神平↓

天神尾根↓谷川岳山頂(往復)
参加者…講習生23名 講師…CJ
松田(前橋)、他15名

班長が中心となり班ごとに講習しながら登山。

〔天神平〕念入りにストレッチ体操を実施、本日の行動予定を再確認、持ち物確認、注意事項などし



た後、班長を先導に出発する、以下講習場所と内容

〔熊穴沢避難小屋〕歩行技術、疲れにくい歩き方

〔天狗の踊り場〕ペース配分、ストックの使い方、休みの取り方、水の飲み方

〔肩の小屋〕地図とコンパス、気象の知識

〔谷川岳資料館前〕危急時対策、搬送法、テーピングの仕方

心配された台風の影響もなく、好天に恵まれ山頂からの360度の大パノラマに参加者は満足したようで、北海道から来た参加者は高い交通費をかけて参加した甲斐があったと写真をいっぱい撮っていた。

★第2グループ 谷川岳新道コース

土合橋↓マチガ沢出合↓一の倉沢出合↓幽の沢出合↓芝倉沢出合↓チガ沢出合↓谷川岳登山指導センター↓谷川岳資料館前参加者…講習生6名 講師…CJ角田二三男(高体連)他5名
駐車場で今日のコースを改めて説明、注意事項、ストレッチ体操後出発講習内容は基本的には第1グループと同じことを実施。テー

ピング、(キネシオテープ)の講習がためになったとの感想が多かった。講習生と講師が同数という大変贅沢な講習となった。

無事に実技も終了し、バスで去来荘に戻り、入浴後夕食を兼ねて情報交換会が行われた。今日の講習会での感想や意見を自己紹介も含め、1人ずつ発表してもらおう、登山の疲れも忘れ、明日の研究協議も忘れ? 遅くまで笑顔で交流することができ、有意義な情報交換会であった。

〔二日目〕9月15日(月)
研究協議「信頼されるリーダーのありかた」

3つの分科会に分かれ、テーマに沿って参加者から事前に提出してもらった資料に基づき発言して



もらい、分科会ごとにまとめ全体会で発表。

◆第1分科会 7名「リーダーの役割と心構え」発表者…角田守(前橋)

◆第2分科会 15名「山で事故をおこさないためには」発表者…阿部源(ミヤマ)

◆第3分科会 7名「中高年登山の諸問題」発表者…吉田直人(境)
各分科会とも時間が足りず結論を導き出すまでには至らなかった

ようだが、それぞれの山岳会での取り組みや、悩みが真剣に協議された。

以下研究協議のアンケート結果
・各団体の実態がわかり参考になった。

・他の団体の良いところを取り入れクラブ運営をしてゆきたい。

・一人ひとりの発言の時間配分を工夫して欲しい。

・実体験に基づく話が有意義だった。

・改めてリーダーの大切さが認識できた。

・経験がいかに大事か理解できた。正しい判断ができるよう精進したい。

・登山は自己責任の上に成り立っているということをもう一度感じた。

・問題に対する共通認識ができて良かった。

・指導員の活用の問題、公募登山の問題等が理解できた。

・天候にも恵まれ、参加者には紅葉は早い、秋の谷川岳での講習会に満足したようである。また、準備期間から佐藤理事長を始め多くの岳連指導委員に多大な協力を戴き無事終了させることが出来たことを嬉しく思う。

平成二十年度冬山合宿

群馬岳連遭難対策委員長 小暮文彦



北アルプス穂高岳 写真提供は前橋山岳会

群馬県山岳連盟加盟団体の平成

二十年度冬山合宿は七団体九パーティで次のように実施されました。

①境町山の会 (三名)

十日間々山岳会 (二名) 尾瀬

②太田山岳会 (二名) 尾瀬

③ " (二名) 大喰岳、槍ヶ岳

④松井田山岳会 (三名)

丸沼スキー場から日光白根山

⑤沼田山岳会 (六名) 八ヶ岳

⑥ " (三名) 谷川岳

⑦前橋山岳会 (四名) 涸沢岳

⑧ " (二名) 八ヶ岳

⑨桐生山岳会 (二名) 毛勝山

③⑧は概ね予定コースをト

レースすることができました。

年末に各地で雪崩に巻き込まれる等の遭難がありました。当岳連加盟団体には事故がなく幸いなことでした。

一月二十一日には報告会を開きました。そのなかで松井田山岳会・斉藤長作氏より「年々規模が縮小したり、メンバーの高齢化は否めないが、それでもどんな計画であっても『合宿は継続する』と考えている」との発言があり、共感いたしました。

各会は、会員数の減少・平均年齢の上昇が進み、山に行っているのか活動しているのかも判らない様相さえみられますが、「合宿」は単に宿泊登山ではなく山岳会という組織活動の集注点としての位置づけでもありますから、スタイルに拘らず継続していただきたいと考えます。又、単一団体で実施が難しい場合や、「ウチでは一人しか都合がつかない」ようであれば合同での実施も積極的に検討して頂きたいと考えます。今年境町と大間々がそういう状況でした。相互研鑽になることもあることでしよう。

報告会等は情報・状況の交換の場というだけでなく、周囲の仲間

の活動を見聞することは自分の活動へのモチベーションを高めるキッカケともなりますので合宿を実施していない会の方々にも参加をお勧めします。

〔末筆に〕

この場を借りまして前任部長・救助隊長からポストを引き継ぎましたことを改めて御挨拶させていただきます。

私は昭和四五年から救助隊に仲間入りさせていただき、西山隊長の下でお手伝いをしていた頃からでは通算二十八年間の隊員活動となります。平成元年度より丁度二十年副隊長をしてまいりました。今後は、この間に習得してきた経験・実践的技術を若い隊員に習得させていきた。また新しい技術・機材を取り入れ共に学んでいく所存です。そして西山隊長が私費を投じて築き上げたワイヤ技術は群馬岳連の誇りとして、直伝の操作方法・機材の考え方、ナイロンロープとのコンビネーションなどを朽ちさせず伝播していきたいと考えております。

皆様からの御指導・御鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

II. 日本の登山行政と登山団体の関係(その2)

群馬岳連副会長

八木原 罔明

連載3

『国民体育大会(国体)』

国体参加への歴史

登山は体育運動の一環として戦前から国体の前身のスポーツ大会である「国民錬成体育大会」に参加している。昭和十六年(一九四一年)に結成した「日本山岳連盟」は大日本体育会(日本体育協会)の前身の加盟団体登録した時は、「行軍登山部会」へ入った。

第十二回明治神宮国民錬成大会(一九四一年十一月)では神奈川県丹沢の大山から東京の明治神宮まで、七〇km、一〇〇〇名の大行軍を行った。参加者は一府県選出一五名で約五〇〇名、日本山岳連盟選手五〇〇名が参加した。一ヶ月後にハワイの真珠湾攻撃、第二次世界大戦が始まる、軍事色・戦時色の濃い大会であった。

第十三回明治神宮国民錬成大会(一九四二年十一月)には、日本岳連が全国から一〇〇〇名を動員し

て、おなじく大山から明治神宮外苑競技場まで各自二〇kgつつ背負って歩いた。

戦後、日本山岳会と全日本山岳連盟を一つにして、一九四六年(昭和二十一年)一月に「大日本体育会」から財団法人日本体育協会(日体協)となった日体協への加盟を迫られたが、まともらず、一九四六年九月に日本山岳会が「全国組織に発展させることを約束した一札を入れて」日体協へ加盟する。

第一回国民大会。一九四六年(昭和二十一年)十月。

近畿地区大会として、戦災を受けなかった京都を中心に開催。関西地区の日本山岳会員が展覧会と講演と映画の会を開いてお茶をにごす。

第二回以降、日体協加盟の日本山岳会が主導して、縦走だけのオープン競技としてぎくしやくしながら実施するが、とうとう第

十一回大会(昭和三十一年)は日本山岳会と全岳連との不協和音が尾を引いて(？)、「適当な会場地なし」として中止。

「中止の穴埋めではないが」と、奈良の大峰山系で三〇〇余名の参加者を得て開かれたのが「第一回全日本登山体育大会」、二〇〇七年(平成一九年)に四六回を数えている「全日大会」である。

一九六〇年四月一日付で「日本山岳協会」が発足し、日体協へ加盟し、この年の第十五回熊本大会から日本山岳協会が競技団体となった。

正式競技化と急激な変化

一九七七年の第三二回青森大会から競技化され踏査を取り入れ試行。一九七八年の第三三回長野国体から、正式競技化に向け成年女子を入れ、これまでの縦走のみでなく、登攀と踏査が加えられ三種目、四種別競技試行。準備が整う。



▲岳聯主催の富岡市の貴前神社から県護国神社へ「聖火伝達奉納行軍」。1941年(昭和16年)11月19日。

第12回明治神宮国民体育大会行軍訓練に参加した中島喜代志、高塚和雄、田村朝之助(左から)。1941年(昭和16年)10月30日～11月4日。

明治神宮国民体育大会行軍訓練 (『群馬岳連50年誌』より)

一九八〇年の第三五回栃木国体から正式種目となり、天皇杯、皇后杯の得点種目となる。

二〇〇二年の第五七回高知国体から踏査が無くなり、縦走と登攀の2種目となる。

二〇〇八年(平成二十年)の大部分国体よりクライミング(これまでの登攀)のみとなり、リードとボルダリングの二種目となる。人工

壁利用のクライミングとなり、一般に云う「登山」とはますます離れた「純然たる競技」の国体山岳競技となる。

国体、国体山岳競技、人間(予選が成り立つほどの選手になりたての人がいるのか否かと動員する役員数)、施設と金(特に国体に使うだけで壊してしまい、後利用が来ない高額建設費の無駄)、クラ

イミング、日山協、スポーツクラ
イミング国際連盟等。これらのま

すまず難しくなる関係をどうする
のかを考えなくてはならない。

『文部科学省登山研修所(富山県立山町)』

急増する遭難の防止を目指して
開設された日本唯一の「国立登山
センター」である。

一九六七年(昭和四十二年)七月
一日開所。設立趣旨は「登山の激
増に伴う悲惨な山岳遭難事故の急
増は、山についての知識および登
山技術の未熟によることが多く、

指導者の不足が大きな原因となっ
ている。国立登山センターを設立
し、高度の技術をもった指導者の
養成をはかり、正しい登山を普及
奨励し、山岳遭難を未然に防止す
る」。

主な目的としては指導者養成と
登山に関する研究機関とすること
であったが、何故指導者の養成が
急務となったかと云えば、前述の
通りの遭難の急増であった。

遭難の急増は富山県登山届出条
例が一九六六年三月に、群馬県谷
川岳遭難防止条例を一九六七年一
月に施行させたが、法令が遭難防
止の抜本的、根本的対策であり得
るはずが無かった。

これらの動きの全ての原因は大

きな社会問題化している「登山に
おける人の死」である。

これらを無くすために高校生、
大学生、社会人登山者の指導者・
リーダーを養成し、その防止に役
立てるのが研修所設立の目的。

登山研修所の組織

文部科学省スポーツ・青少年局―運営委
生涯スポーツ課

登山研修所―専門調査委員会



■運営委員会

研修所の効率的な運営及び登山
の指導・技術の向上に関する事項
について、指導助言を得るため、
運営委員十名を委嘱している。

■専門調査委員会

研修所の研修事業の運営につい
て、特別の事項を調査研究するた
め、専門調査委員十七名を委嘱し
ている。

登山研修所の事業

□一般研修会

大学生登山リーダー研修会(夏
山1)

山岳遭難救助研修会A

社会人登山リーダー研修会(1)
*

1

高等学校・高等専門学校登山指
導者研修会

大学生登山リーダー研修会(夏
山2)

山2)

社会人登山リーダー研修会(2)
*

1

山岳遭難救助研修会B未定

大学生登山リーダー研修会(冬
山未定)

山未定

社会人登山リーダー研修会(冬
山)*

山)*

社会人登山リーダー研修会の
(1)と(2)は、連携しています。

□登山指導員研修会(春山編、
冬山編)

□中高年安全登山指導者講習会
(毎年、中部・東部・西部地区に
て開催)

冬山編)

□中高年安全登山指導者講習会
(毎年、中部・東部・西部地区に
て開催)

(社)日本山岳協会、都道府県教
育委員会と共催

育委員会と共催

育委員会と共催

育委員会と共催

育委員会と共催

育委員会と共催

育委員会と共催

育委員会と共催

ろんとして、日本登山界・登山者
全ての情報センターとしてはどう
かと考えている登山関係者が多
い。

日本の登山に関わる全ての情報
の集積と発信の基地とし、可能で
るために。

あれば日本人登山家のもののみで
なく、ヒマラヤ地域の全登山史を
も集積し、誰でも閲覧・利用可能
なものに発展させたいとの意見も
ある。登山文化を残し発展させる
ためにも。



谷川岳における遭難救助(昭和30年代) 撮影 羽田栄治氏(1)

『全国山岳遭難対策協議会(全山遭)』

一九六四年(昭和三十九年)〜
二〇〇七年七月で四四回開催。

日本に登山ブームが爆発的に

起こった原因は、一九五六年度の

ネパール・ヒマラヤのマナスル

(八二六三)初登頂とナイロンザ



谷川岳における遭難救助（昭和30年代）（2）

イル切断事件を題材にした井上靖の新聞連載小説「氷壁」だといわれる。登山の隆盛は遭難も急増させた。

この頃遭難防止対策や安全登山の普及・推進にはあらゆる手だてが考えられた。それが山岳遭難防止条例や文部省（文部科学省）登山研修所の設置であり、中高年安全登山指導者講習会やこの全山遭の開催である。

現在文部科学省、警察庁、環境省、気象庁、（社）日本山岳協会及び山岳遭難対策中央協議会による共催で、毎年開催地を変え持ち回りで開催している。

山岳遭難も時代と共に事故の形態や傾向も変化している。岩場や沢での墜落、滑落、落石、冬山での雪崩や気象遭難などが、低レベル化・高齢化・量的拡大をしている。

電話からが多くなり、救出はヘリコプターとなり素早い対応が可能にはなったが、安易にタクシー代わりに呼んではいけないか？との批判もある。

ツアー登山、公募登山は自分では計画を立てず、判断出来ない登山者を創出。山岳会や大学山岳部は疲弊・衰退し新たな登山者、リーダーが生まれない状況。

『中高年安全登山指導者講習会』

一九九一年から全国三地区で毎年開催

一九八九年（平成元年）初冬の十月九日、富山県立山連峰登山に

来た滋賀、京都の中高年登山者十名が吹雪のために下れず、八名死亡の大遭難事故が起こる。これまでも中高年登山者の急増と遭難の急増に頭を痛めていた国・登山界は大きなショックを受け、早急に対策を打つ必要に迫られる。

一九九一年から文部科学省、（社）日本山岳協会、開催地都道府県教育委員会の共催で開催。中高年の体力等に応じた登山の知識や技能について習得すると共に研究討議を行い、中高年登山指導者の養成と安全登山の普及を図る。

参加対象者は教育委員会関係者、岳連協会関係者、その他登山の指導的立場にある六〇才以下の者。一九九一年の東部地区・神奈川、中部地区・富山、西部地区・

鳥取から始まり本年で十七年目であるが、延べ一八〇三名が受講。ただ、最近の受講者は「中高年の登山指導者」というよりは、「単なる登山の基礎知識・技術の研修」としての受講者であり、同じ顔ぶれであることもあるという。



谷川岳における遭難救助（昭和30年代）（3）

Ⅲ. 結び

本来スポーツの中でも特に自由を求めている行為である登山が、法律や規則に縛られて良いはずが無い。しかし現実には登山者自身により山岳遭難事故が引き起こされ、富山・群馬二つの県での法規制を阻止出来なかった。

現在も遭難が続く以上廃止は不

遭難者のうち四〇才以上の中高年登山者が八〇％を占め（遭難者の七〇％が男性）、一般登山道での転落、転倒、道迷いを原因とするものが多い。救助依頼は携帯

可能であろうが、一件でも二件でも減らし、改正を求め、廃止を目指すべきであろう。安全で楽しい登山の推進。普及も遭難の防止も全て我々登山界、登山者側の責任である。

自然志向、健康志向の中高年登山者の増加は歓迎するが、若者の登山離れ、登山の世界を覗きもしない事のほうが登山界の将来にとってはより深刻である。

我々中高年登山者がどんなに踏ん張っても突つ張っても、先は短い。登山界にとって明るい将来・未来は無い。

危険・きつい・汚い登山でなく、先ずは自然に親しませ、若者も集う健康でやり甲斐・達成感・満足感を感じることの出来る登山を自然愛好者・登山愛好者は力を合わせて目指したい。

様々な遊び、スポーツがある。少子社会で大事に育てられた若者が大勢の観客の前でプレーが出来、華やかで、脚光を浴び、努力が結果として名声と収入に結びつくスポーツに集まることは止められない。

どうすれば自然の中に、山の中へ引き込めるか？我々の仲間に来るか？

科学的文明の発達と享受は、環境の問題でも我々を反省させ、より本質的・根元的な文化への回帰を呼び覚まし、便利で楽ではあってももう一つ味気ない生活、人生を見直し人間性回復のためにも人々は自然や登山を再び目指すと信じている。

我々登山者は環境や大自然の偉大さ大切さを普段の地道な活動、実践を通じて次代、後世にまで多

くの人達に伝え、自由を満喫できる大自然の中之運動、登山の楽しさを広め、素晴らしさを行くことを誓い合いたい。

そして登山がいかに健康的にも精神的にも良いかを



谷洲岳における遭難救助（昭和30年代）（4）

【参考文献】

1. 高橋定昌著「日本岳連史」

【資料提供】

1. 群馬県谷川岳警備隊

2. 太田忠行

3. 文部科学省登山研修所

4. 佐伯尚幸

*本文ともに敬称略

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802

<http://annapurna.jp>

annapurna

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒 379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026